

平成 26 ( 2014 ) 年度 教員活動報告書 ( 1/3 )

学部・学科	総合社会学部・総合社会学科	職名	准教授	氏名	フルカワ 古川 まゆみ
学歴	昭和48年 4月 立教大学文学部ドイツ文学科入学 昭和52年 9月 ナイメーヘン大学 ( オランダ ) 文化人類学学科留学 立教大学国際交流制度 「昭54.6まで」 昭和55年 3月 立教大学文学部ドイツ文学科卒業 昭和59年 4月 国際基督教大学大学院比較文化研究科 ( 博士前期課程 ) 入学 昭和62年 3月 国際基督教大学大学院比較文化研究科 ( 博士前期課程 ) 修了 昭和63年10月 ケンブリッジ大学 ( イギリス ) 社会人類学科留学 国際基督教大学国際交流制度 「平元.6まで」 平成 2年 6月 国際基督教大学大学院比較文化研究科 ( 博士後期課程 ) 中途退学 平成 2年 9月 ストックホルム大学 ( スウェーデン ) エスノロジー研究所留学 ( 客員研究員 ) 「平5.3まで」 平成 5年 4月 国際基督教大学大学院比較文化研究科 ( 博士後期課程 ) 入学 平成 5年 6月 博士候補資格取得 平成 6年11月 国際基督教大学大学院比較文化研究科 ( 博士後期課程 ) 単位取得満期退学				
学位	昭和62年 3月 文学修士 ( 国際基督教大学 )				
専門分野	文化人類学、ヨーロッパ研究 博物館研究				
専門資格					
所属学会	昭和60年 6月 日本文化人類学会 平成17年11月 全日本博物館学会 平成18年 4月 北ヨーロッパ学会 平成24年 6月 日本アイスランド学会				
受賞					
担当授業科目	学 部 ヨーロッパ地域研究、欧米地域論、文化人類学演習 ・ 、卒業研究演習I・ 、卒業論文、総合社会学演習 ・ . 総合社会学基礎演習 初年次演習				
論文指導	論文指導担当[主査] ( 卒論 : 2名 )				
F D 活 動 ・ 教 育 実 績	科目名 欧米地域論	科目カテゴリー 講義 ・ 演習 ・ 実習 ・ 実験	実施学期 春 ・ 秋	履修者数 36名	
	授業の概要 : ヨーロッパの基層文化とアメリカのヨーロッパ系移民についての講義 教育活動の振り返り 教育活動の成果 : 1 毎回レジュメを配布。講義内容と関連する映像もできるだけ使用。学生のコメントと質問については、毎回、文字化して次回の授業時に紹介。質問の返答もそこに書き込んだ。中間試験を実施し、答案返却の際、論述式答案を書くには、「聴く力」が必要であることを強調した。学生の中には、毎年のことだが、学力が飛躍的に伸びたものがある。その他、アンケートを独自に実施し、彼らの学習状況、関心の把握に努めた。 今後の課題 : 講義のテンポをゆっくりすることと、分量を減らすことを検討する。				
	科目名 文化人類学演習	科目カテゴリー 講義 ・ 演習 ・ 実習 ・ 実験	実施学期 春 ・ 秋	履修者数 7名	
授業の概要 : 大学生としての読む・書く・話す・討論する力を身につける。					

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (2/3)

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">FD 活動・教育実績 つづき</p>	<p>教育活動の振り返り 教育活動の成果： 新聞を教材にして、学生たちにまず「文字」に親しんでもらうことから授業開始。「新聞も読まない大学生」からの脱却である。多読と精読の2種類の読み方を教え、特定のテーマについて、新聞記事の中からいくつも探し出すことができること、それがレポートを書く際の「資料収集」にもつながることを説明した。1年間で「読む力」に関しては概ね伸びたと感じている。</p> <p>2 学業以外では、ゼミでは相互のコミュニケーションが非常に大事なので、懇親会や茶話会の時間も設け、全員が誰とでも意見交換ができるような雰囲気を作ることに努めた。このほか、各学期に個人面談を2回ずつ行い、各自の個人研究のテーマ、就職、個人的な問題など、公では話しにくいことも相談にのった。</p> <p>今後の課題： 特になし。</p> <p>・学内外のFD関連講演会/セミナー等への参加実績 特になし。</p> <p>・教育効果が高い、あるいは教育の一環として行われている課外活動等 特になし。</p>
<p>H26 年度 研究課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 北欧の家屋敷とヨーロッパの年中行事</li> <li>2. エスノジストとしての画家</li> <li>3. 博物館の創設経緯と社会的役割</li> <li>4. 「自然享受権」一考および町並み保存</li> </ol>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">平成二十六(2014)年度の 研究活動の概要</p>	<p>「北欧の家屋敷とヨーロッパの年中行事」については、文献資料の読解を継続。特に後者については、フランス・アルザス地方の調査をもとに、本学での講義と京都文教高等学校での高大連携授業においてクリスマスと言語について一部、紹介した。総合社会学部研究報告に投稿予定の「クリスマス」については執筆中。</p> <p>「エスノジストとしての画家」については、現在、論文を執筆中。</p> <p>「博物館の創設経緯と社会的役割」については、文献資料の読解を継続。</p> <p>「自然享受権」については、平成27年度に論文を執筆予定。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">平成二十六(2014)年度の 主な研究成果等</p>	<p>(著書)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「8.5 ジェンダー」、共著(当該部分を担当)、平成26年7月、朝倉書店、『朝倉世界地理講座9 中央・北ヨーロッパ』(pp.349-354)</li> </ol> <p>(論文)</p> <p>(学会報告、学会活動)</p> <p>(その他、エッセイ・翻訳・学術講演等)</p> <p>(調査活動)</p> <p>平成26年 8月 国内の美術館にて主に17世紀から20世紀前半にかけての写実的絵画について調査(於:名古屋、甲府)</p> <p>平成27年 2月 国内の美術館にて写実絵画についての調査(於:甲府)</p> <p>平成27年 3月 国内の美術館にて写実絵画についての調査(於:田川)</p> <p>(学外研究資金による研究活動・科学研究費補助金等含)</p> <p>(学内活動)</p> <p>共通教育委員会委員、宗教委員会委員、図書館委員会委員</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">平成二十六(2014)年度の 社会における活動</p>	<p>(小中高との連携授業の講師)</p> <p>平成26年 6月 京都文教高等学校ALP授業「国語はいくつ? ヨーロッパの言語事情」、於:同校</p>

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (3/3)

平成二十一年～二十五 (2009～2013) 年度の主な研究成果等	(著書) (論文)
	(学会報告、学会活動) 学会発表： 1. 「スカンセン：「国民の博物館」の形成過程」、単独、平成21年6月、全日本博物館学会第35回研究大会、明治大学 2. 「村の共有地は誰のもの？：自然享受権再考」、単独、平成21年11月、北ヨーロッパ学会第8回研究大会、大阪大学
	(その他、エッセイ・翻訳・学術講演等) 報告： 1. 「「クリスマス語る」：スウェーデン、ダーラナ地方の1村落から」、単著、平成26年3月、京都文教大学 総合社会学部研究報告第16集 (pp.59-93) 2. 「クリスマスの愛」、単著、平成26年3月、京都文教大学『総合社会学ガイドブック 社会をのぞく15の方法』(pp.91-96)
	(調査活動) 平成21年 8・9月 野外博物館「スカンセン」調査 於：スウェーデン(ストックホルム) 平成25年 3月 クリスマスの民俗調査 於：フランス(アルザス地方・パリ) 平成26年 3月 1. 画家アンカーについての調査 於：スイス(ベルン) 2. 2言語境界区域の実情調査 於：スイス(フリブール)
	(学外研究資金による研究活動・科学研究費補助金等含) (学内活動) 平成20年 4月 学生委員会委員「平22.3まで」 平成21年 4月 宗教委員会委員「平23.3まで」 人権委員会委員「平23.3まで」 研究成果刊行助成委員会委員「平22.3まで」 図書館・情報委員会委員「平23.3まで」 平成22年10月 国際交流委員会委員「平23.3まで」 平成23年 4月 広報委員会委員「平24.3まで」 広報誌編集委員会委員「平24.3まで」 人間学部(現・総合社会学部)研究報告編集委員会委員「平25.3まで」 研究成果刊行助成委員会委員「平25.3まで」 むつみ会委員「平24.3まで」 平成23年10月 就業力育成支援委員会委員「平25.3まで」 学科予算委員会委員「平26.3まで」 平成24年 4月 共通教育委員会委員「現在に至る」
平成二十一年～二十五 (2009～2013) 年度の社会における活動	(小中高との連携授業の講師) 平成21年 9月 模擬授業「ヴァイキングは海賊か?」、於：奈良県立平城高等学校
	(その他) 平成23年 6月 京都文教教養講座「観光みやげの人類学」講師、「スウェーデンの観光みやげ～ダーラヘスト(dalahäst)とヴァイキング像」、於：京都文教大学